

A copy of an order from the Office of Retired Tennō Go-Shirakawa. 13th day, 12th month, 4th year of Shōan [1174]. (KW08-Shiryō 9 Go-Shirakawa Innochō Kudashibumi An: Tōdaiji to Go-Shirakawa-in)

FINAL FINAL

Source:

承安四年一二月一三日 後白河院庁下文案（東南院¹文書四ノ四） 東大寺²と後白河院

Fourth of four documents from the Tōnan'in³. Tōdaiji and Retired Tennō Go-Shirakawa. *Dainihon komonjo, Tōdaiji monjo* Vol. 2, pp 438-40.

Dan Sherer
Kevin Wilson
Michelle Damian
January 17, 2009

原文

院庁下 伊賀国在庁官人并東大寺所司等

可且依文書理、且任国司庁宣、永為当寺領。同所司等訴申当国名張郡黒田庄出作并同郡内新庄等事、

副下国司庁宣

右、彼所司等今月 日解状稱、謹檢案内、件田畠内黒田庄出作者、往古寺領也。所当官物便補当寺御封之外、所濟来国庫也。然而当任国司所殘之官物不幾之上、依寺家訴訟不絶、永奉免大仏畢。次於新庄者、又同雖為寺領、動近来企収公之間、專寺他寺之悪僧等、互企押領之間、為国旁誼譁不尽之故、任文書之理、同可為寺領之由、成庁宣畢。爰寺家任庁宣狀、各雖令領知、後代之牢籠猶非無疑殆者、永停止向後之牢籠、任国司庁宣、可為寺領之由、欲被成賜御下文而已。当寺自往古、以彼国寺領、偏宛来修理興法用途之处、若件寺領牢籠出来者、当寺又全滅亡者歟。望請庁裁。且依文書道理、且任国司庁宣、件出作新庄等停止一切勅事国役、可為不輸寺領之由、被成賜庁御下文者、将仰 皇恩之無偏、弥奉祈萬歳之宝祚、者、且任文書理、且任国司庁宣、永以当国名張郡黒田庄出作并郡内新庄等、可為当寺領之狀。所仰如件。在庁官人并当寺所司等宜承知、不可違失、故下。

承安四年十二月十三日 主典代大藏大輔中原朝臣〈在判〉

別当権大納言兼中宮大夫藤原朝臣（隆季）〈在判〉

判官代右少辨兼右衛門佐平朝臣（親宗）〈在判〉

¹ 東南院：東大寺の一院。大仏殿の東南にあるのでそう称した。(国史大辞典)

² 東大寺：華嚴宗の総本山。昔大和国、現在奈良県奈良市奈良公園にある。天平 17 (745) 聖武天皇により創建された。日本一大きい大仏で有名。

³ A cloister within the precincts of Tōdaiji. So called because it is located south-east (*tōnan*) of the Great Buddha Hall. (*Kokushi daijiten*)

読み下し

院庁下 伊賀国⁴在庁官人⁵並びに東大寺所司等

且は、文書の理（り）に依り、且は国司庁宣⁶に任せて、永く当寺領たるべし。同所司⁷等、訴え申す、当国名張（なばり）郡黒田庄出作⁸（でさく）並びに同郡内新庄⁹等の事、副（そえ）下す国司庁宣。¹⁰

右、彼の所司等、今日 日解状¹¹にいわく、謹んで案内を検ずるに、件の田畠（でんぱく）の内黒田庄出作は、往古の寺領なり。所当官物（しょとうかんもつ）¹²当寺御封¹³（みふ）に便補¹⁴（べんぽ）の外、国庫¹⁵（こっこ）に濟（さ

⁴ 旧国名。今の三重県の西部。近畿地方にある。近畿から東海道への出口として重要された。

⁵ 在庁官人：平安中期から鎌倉時代、国守の命に従って諸国国衙で実務を執った地方役人。平安以後、国守は地方に赴任しないで在京し代理人（目代＝もくだい）を派遣するようになったが、この目代と在庁官人の在勤する役所を留守所（るすどころ）という。在庁官人の多くは土着の地方豪族で、この職を世襲し次第に武士化して、鎌倉時代には御家人（ごけにん）となって目代と対立するようになった。（『国史大辞典』）

⁶ 庁宣：古文書の様式の一つ。国司庁宣の略。平安時代中頃から国司遙任制に伴って現われた様式で、在京の受領である守や介が国衙（こくが）の留守所に対して出した文書。「庁宣」と書き出す。一一世紀以降、国符に代わって多用されるようになった。

⁷ 所司：僧侶の職名。また上座・寺主・都維那（ついな）の三綱（さんごう）の称。

⁸ 出作：荘園内に居住する農民が、居住地以外の荘園・公領で田畑を耕作したこと。でづくり

⁹ この場合、「新庄」は東大寺の黒田庄の東の堺外に位置した田畠を指す。東大寺は、その田畠を新しい荘園として預かろうとしていた。

¹⁰ 承安2年閏12月20日庁宣を指す可能性有り。『大日本古文書』東大寺文書之七 四一〇 p.262

¹¹ 解状：目上の人に差し上げた請願書・記述。

¹² 所当官物：平安時代の中期以後における米納を中心とした所課。律令制（りつりょうせい）下においては、租（そ）・庸（よう）・調（ちょう）・雑物（ぞうぶつ）などの貢納物の総称を官物という。しかし、平安中期以後になると律令制度に基づく収取体系は変質を余儀なくされた。この段階で「官物」「所当官物」の語が一般化した。その具体的内容は一律化しえないが、作田に応じて賦課される収納米を中心としている。律令制下の種々の所課が一つ一つの名目による収取を明確化できず、それらが変質し、形を変えながらしだいに「官物」「所当官物」という形に一括化されてきたともいえる。一方、「所当官物」の成立と同時にそれ以外の所課＝夫役なども「臨時雑役」「所当雑事」などのことばとして新たに成立した。鎌倉期以後の荘園においては年貢のことを官物とよぶ場合も広くみられる。（『国史大辞典』）

¹³ 御封：封戸（ふこ）を敬っていう語。

¹⁴ 便補：元来、封物は指定された封戸から徴収するもので、しかも戸の租・調を免除するときでも、封主に損失を与えないように、正税から補填するという特別の扱いを受けていた。また実際に封戸の出す封物が規準を下廻る場合には、他から補填しなければならない。（阿部猛 『日本荘園史』 p. 83）

い) し来たる所なり。然而(しかれども) 当任国司、残る所の官物、幾(いくばく) ならざるの上、寺家¹⁶の訴訟、絶えざるによって、永く大仏に奉免¹⁷(ほうめん) しおわんぬ。次で新庄においては、又同く寺領をたりと雖も、動(ややもすれば) 近来(きんらい) ¹⁸収公¹⁹(しゅこう) を企つるの間、専寺(せんじ) 他寺²⁰(たじ) の悪僧等、互いに押領²¹(おうりょう) を企つるの間、国の為、旁(かたがた) ²²誼譚(けんか) 尽きざるの故、文書の理(り) に任せて、同く寺領をたるべきの由、庁宣(ちょうせん) をなしおわんぬ。爰(ここ) に寺家、庁宣の状に任せて、各(おのおの) 領知²³せしむると雖も、後代の牢籠²⁴(ろうろう)、なお疑殆²⁵(ぎたい) 無きにしもあらざれば、永く向後²⁶(きょうこ) の牢籠を停止し、国司庁宣に任せて、寺領をたるべきの由、御下文をなし賜われんと欲するのみ。当寺往古²⁷(おうこ) より、彼の国の寺領を以って、偏えに修理興法(こうほう) ²⁸の用途²⁹(ようど) 宛(あて) 来たるの処、もし件の寺領牢籠出来(しゅったい) せば、当寺又全く滅亡(めつぼう) する者(もの) か。望請(のぞみこうらく) は庁裁³⁰(ちょうさい) を。且は文書の道理により、且は国司の庁宣に任せて、件の出作、新庄等一切の勅事、国役³¹を停止し、不輸³²(ふゆ) の寺領をたるべきの由、庁の御下文をなし賜わらば、将(まさ) に皇恩

¹⁵ 国庫：国衙の倉庫。

¹⁶ 寺家：別当など一寺の長官を指す語。場合は、東大寺の三綱を指す。また、寺院内部で塔頭に対する寺当局。(『日本国語大辞典』)

¹⁷ 奉免：官物・雑事などの賦課を免除すること。

¹⁸ 近来：ちかごろ。

¹⁹ 収公：領地などを権力が取りあげること。しゅうこう。しゅく。

²⁰ この場合は、「他寺」は興福寺を記す。

²¹ 押領：(領地などを) 他の者からむりやりに奪うこと。また、そういうことをするさま。押知行。横領。おしりょう。

²² =方々

²³ 領知：領有して支配すること。知行所として支配すること。また、その土地。

²⁴ 牢籠：主権を犯され、自由を失うこと。

²⁵ 疑殆：疑いおそれること。疑いあやぶむこと。

²⁶ 向後：今から、これから。

²⁷ 往古：過ぎ去った昔。大昔。

²⁸ 興法：仏教をさかんにすること。

²⁹ 用途：要する費用。入費。

³⁰ 庁裁：院の庁の裁決。

³¹ 国役：平安後期、国司が在地に賦課した雑役。こくやく。

³² 不輸：租税を国家に上納する必要のないこと。租税を納めないこと。

(こうおん)の無偏(むへん)³³を仰ぎ、いよいよ萬歳の宝祚³⁴(ほうそ)を祈り奉らん、てへれば、且は文書の理に任せて、且は国司庁宣に任せて、永く当国名張郡黒田庄出作並びに郡内新庄等を以って、当寺領をたるべきの状。仰する所件の如し。在庁官人並びに当寺所司等宜しく承知し、違失すべからざれ、故(ことさら)に下す。

承安(しょうあん)四年十二月十三日 主典代大蔵大輔(たいふ) 中原朝臣³⁵〈在判〉

別当権大納言兼中宮大夫藤原朝臣(隆季)(たかすえ)³⁶〈在判〉

判官代右少辨兼右衛門佐平朝臣(親宗)(ちかむね)³⁷〈在判〉

現代日本語訳

院庁が伊賀国在庁官人並びに東大寺所司たちに[院の仰せを]下す。

一方では、文書の道理により、一方では国司庁宣に任せて、永く当寺の領であるべきである。同じ所[東大寺]の所司が訴えた。この国名張郡黒田庄出作並びに同じ郡内の新庄の事。

国司庁宣を添え下す。

右は、彼の所司等、今日 日の解状に書いてるのはこのようです。「謹んで事情を取り調べますに、件の田畠(でんぱく)の内黒田庄出作は昔からこの寺の領地でした。その年貢は、封戸として[東大寺に納める以外]は、国衙の倉に納めてきました。しかし、[東大寺に納める以外]今の国司に残る官物が少ない上に、寺家[東大寺]はたえず訴えています。そのため[国司は]永久に[東大寺の]大仏に[出作を]寄進しました。

³³ 無偏：かたよらないこと。すべてに公平に行き渡ること。

³⁴ 宝祚：天子の位。皇位。

³⁵ 以下、これらの署名者は、院庁職員である[別当・判官代・主典代]。

³⁶ 藤原隆季(ふじわらのたかすえ 1126-?)：この時に正二位権大納言。(『公卿補任』 p. 499)

³⁷ 平親宗(たいらのちかむね 1143-?)：この時に正五位下。(『公卿補任』第一篇 p. 502、『檢非違使補任』 p. 191)

次に、新莊については、また同様に寺領であるといっても、どうかすると近頃、[国衙が]収公を企てていました。そのため、この寺[東大寺]とその他の寺の悪僧が両方とも[土地]を奪おうとしています。国にとって住民の喧嘩が尽きないので、文書の道理に任せて、[出作と]同様に寺領にすべきである旨の序宣が下りました。これに[従って]、寺家が序宣の状に任せて、各[新莊と出作を]領知しますが、しかし後代の権利侵害が、なお疑いがない訳ではありません。[そこで]今後は永久に権利侵害を停止して、国司序宣に任せて、寺領とすべきことという内容の[院序の]御下文を出していただきたいと願うのみです。当寺は大昔から、かの国の寺領の[年貢などを]専ら修理と興法の用途を宛てて来ました。もしこの寺領が権利侵害されるようなことが出て来れば、当寺は完全に滅亡することになるでしょう。院の序の裁決を下される様をお願いします。一方では文書の道理に従い、一方では国司の序宣に任せて、この出作と新莊等については一切の勅事と国役を停止し、不輸の寺領としてくださるよう、院の序の下文をいただければ、院の公平なご恩を仰ぎ、ますます万年の宝祚を祈りましょう」そういったので、一方では文書の理に従い、一方では国司の序宣に任せて、永久に当国名張郡黒田庄出作並びに同郡内の新庄等を、東大寺領とするべきである。[後白河院の] 仰せは上記のとおりである。院の序の官人及び東大寺の所司達を承知して、これを実行せよ。これに違ってはならない。特別に[この命令を]下す。

承安四年十二月十三日 主典代大蔵大輔（たいふ）中原朝臣〈在判〉
別当権大納言兼中宮大夫藤原朝臣（隆季）〈在判〉

判官代右少辨兼右衛門佐平朝臣（親宗）〈在判〉

英訳

Ordered by the Office of the Retired *Tennō* [to] the resident provincial officials³⁸ of Iga Province³⁹ and Tōdaiji⁴⁰ officials.⁴¹

That, both based on the logic of [previously issued] documents and on the orders⁴² of the provincial governor, let this [Kuroda Estate] long be the temple's [Tōdaiji's] property; and as argued by the temple officials⁴³ [of Tōdaiji], that the fields known as *shussaku*⁴⁴ in this [Iga] province, Nabari District, Kuroda Estate, as well as the fields in the same district known as the *shinshō*,⁴⁵ also be such.

Attached [to this document] is the order⁴⁶ of the [Iga] provincial governor.

³⁸ 在庁官人 (*zaichō kanjin*): From the mid-Heian to the Kamakura period, they were residential provincial officials who held managerial powers in the provincial offices (*kokuga*) and followed the orders of the absentee provincial governor. After the Heian Period, provincial governors were not sent to the countryside, but rather they stayed in the capital and sent out representatives. The place where these representatives and the residential provincial officials worked was called the Absentee Office. Many of the *zaichō kanjin* were local elites with strong ties to the area they managed. The *zaichō kanjin* posts tended to become hereditary and in the Kamakura Period the positions stood in opposition to the *gokenin* (housemen) of the bakufu. (*Nihon kokushi daijiten*) *Jeffrey Mass suggests that most *zaichō kanjin* were descendents of courtiers who settled in the provinces and became the “top stratum of a newly armed local elite” and their descendants. (*Yoritomo and the Founding of the First Bakufu*, p. 39)

³⁹ 伊賀 Iga: The name of a province that occupies the present-day western section of Mie Prefecture. It is considered part of the Tōkai region. Because of its position as the Kinai's link to the Tokaidō (Eastern Sea Road), it was considered of great importance.

⁴⁰ 東大寺 Tōdaiji: The head temple of the Kegon school. Located in what was once Yamato Province, currently Nara Park in Nara City, Nara Prefecture. It was founded in Tempyō 17 (745) by Shōmu Tennō, and is known for having the largest Buddha statue in Japan, the Nara Daibutsu.

⁴¹ 所司 (*shoshi*): Another name for the three deans who administered a monastic community at a temple.

⁴² 庁宣 (*chōsen*): A type of premodern official document. The *chōsen* form of document appeared in the mid-Heian Period along with the system that allowed for absentee appointments. This system allowed first- and second-level manager-provincial governors to stay in the capital instead of being forced to travel to their assigned posts in the countryside. The absentee governors, in order to manage their respective lands, needed to send documents to the absentee office (*rusudokoro*) of the provincial office. They did so in a *chōsen*.

⁴³ 寺家 (*jike*): Literally, the corporate temple community, officially represented by its officials, the *sangō*, or three deans. (Piggott, *Emergence of Japanese Kingship*, p. 313)

⁴⁴ 出作 (*shussaku* or *desaku*): Farmers who live in a certain *shōen* that cultivate dry or wet lands of other *shōen* or public lands. It also can refer to fields outside the *shōen* boundaries.

⁴⁵ In this case *shinshō* refers to lands that technically fell outside the eastern boundary of Tōdaiji's Kuroda Estate, the Nabari River. It should be noted that Tōdaiji was trying to make these fields into new (*shin*) *shōen*-like tax-exempt lands.

⁴⁶ Refers to an order (*chōsen* 庁宣) issued on the 20th day, intercalary 12th month, Shōan 2. (*Dainihon komonjo: Tōdaiji monjo*, Vol. 7 #410 p. 262)

As above, it says in the petition⁴⁷ of [Tōdaiji] temple administrators from this month and [unspecified]⁴⁸ day:

Respectfully considering these matters, what we call the *shussaku* of Kuroda Estate – including rice fields and dry fields – have long been temple property. Aside from the annual rice taxes⁴⁹ that have been assigned to make up⁵⁰ for sustenance households,⁵¹ all of the yearly tax is paid into provincial storehouses.⁵² However, in the term of the sitting provincial governor there is little in the way of remaining goods [from the annual taxes], and the complaints from the temple administrators have been incessant, so it has all been exempted⁵³ for the Great Buddha [Tōdaiji]. Next, as for the newly opened fields called *shinshō*, even though they should also be the temple's property, more and more in recent⁵⁴ times there are plots to confiscate⁵⁵ [these fields], while evil monks of this temple and the other temple⁵⁶ alike scheme to steal our holdings.⁵⁷ Meanwhile, since the arguments about various matters with the provincial authorities never cease, based on the logic of [previously issued] documents, it too should be the temple's holdings. There has also been a provincial governor's

⁴⁷ 解状 (*gejō*): A petition or statement sent to a superior.

⁴⁸ Documents from the Office of the Retired *Tennō* often use this format, omitting a specific day. (Endō Motoo, KW 2008)

⁴⁹ 所当官物 (*shotō kanmotsu*): Used from the middle Heian Period to refer to the various taxes, especially the rice tax. Under the *ritsuryō* system, *kanmotsu* referred to the various types of tribute goods, including land, labor, and miscellaneous goods. However, from the middle Heian Period on, the terms *kanmotsu* and *shotō kanmotsu* became commonly used. Simultaneous with the establishment of *shotō kanmotsu*, terms for other types of taxes such as *buyaku* (labor for such purposes as land reclamation and irrigation projects, repair of roads, transportation of tax rice, and military service), *rinji zōyaku*, (extraordinary services), and *shotō zōji* (miscellaneous tax services) came into being. After the Kamakura Period, there are also instances of *kanmotsu* referring to the annual taxes on a *shōen*. (*Kokushi daijiten*)

⁵⁰ 便補 (*benpo* or *binpo*): Originally, goods collected from sustenance households were fixed, and even when taxes in rice and manufactured items were exempted, in order to not cause the household owner any financial loss those taxes were specially compensated for through tax rice stored in provincial granaries. Furthermore, if tribute goods from sustenance households were below standards, it was necessary to compensate with other goods. (Abe Takeshi, *Nihon shōenshi*, p. 83)

⁵¹ 御封 (*mifu*): Term of respect denoting sustenance households.

⁵² 国庫 (*kokko*): The treasury of the provincial headquarters.

⁵³ 奉免 (*hōmen*): Exemption from taxes on goods and miscellany.

⁵⁴ 近来 (*kinrai*): Recent times.

⁵⁵ 収公 (*shukō*; also *shūkō* or *shuku*): To confiscate.

⁵⁶ Though it is unclear in the original text, “another temple” likely refers to Kōfukuji.

⁵⁷ 押領 (*ōryō*): To forcefully usurp (lands, etc.) from another, the act of usurpation.

order issued [to this effect] that. And even though the temple administrators have a provincial governor's order to hold⁵⁸ this land [Kuroda Estate's *shussaku* and *shinsho*], since in later ages there will almost certainly be doubt⁵⁹ leading to incursions,⁶⁰ in order to stop forever⁶¹ future depredations, let there be an order by the retired *tennō*'s office to the effect that these are temple holdings, just as in the provincial governor's order.

From olden times⁶² this temple has used these resources⁶³ [in Iga] to repair the temple and spread the law.⁶⁴ If this temple property is stolen, it will result in the complete downfall of this temple. What we humbly plead for is a judgment⁶⁵ from the Office [of the Retired *Tennō*]. Both deferring to the rationale of documents and provincial governor's order, let the *shussaku* and *shinshō* be exempted from all royally ordered levies and provincially ordered levies⁶⁶ - let this temple holding be tax-exempt.⁶⁷ When we receive the order from the offices of the retired *tennō*, all will then look up to the impartial⁶⁸ royal beneficence, and all will pray for your Majesty's [Go-Shirakawa's] long reign.⁶⁹

Therefore [we the members of the Office of the Retired *Tennō*], based upon the rationale of [previously issued] documents and on the order of the provincial governor, order that the *shussaku* and *shinshō* in this [Iga] province, Nabari District, Kuroda Estate, forever shall be the lands of this temple. Commanded as stated above. Let the resident provincial officials and officials of this temple know this and carry it out. Let there be no breach. So ordered.

Shōan 4, 12th Month, 13th Day

⁵⁸領知 (*ryōchi*): To claim and manage a land.

⁵⁹疑殆 (*gitai*): Fear and doubt.

⁶⁰牢籠 (*rōrō*): To violate sovereign rights, lose freedoms.

⁶¹向後 (*kōgō*): Hereafter, from now on.

⁶²往古 (*ōko*): Long ago.

⁶³用途 (*yōdo*): Necessary monies, resources. Although the original text uses the term *yōdo*, it is not limited only to money but also includes other resources from the land.

⁶⁴興法 (*kōbō*): Spread the dharma.

⁶⁵庁裁 (*chōsai*): A decision handed down by the Office of the Retired *Tennō*.

⁶⁶国役 (*kokuyaku*): Refers to the miscellaneous services the provincial governors imposed on the land.

⁶⁷不輸 (*fiyu*): Exempt from taxes.

⁶⁸無偏 (*muhen*): Unbending, always stalwart. Here, refers to the impartial will of the *tennō*.

⁶⁹宝祚 (*hōso*): The Son of Heaven.

Director [of the Office of the Retired Tennō] cum Provisional Senior Counselor and
Second-level Manager of the Queen-Consort's Household Lord Fujiwara <no Takasue>⁷⁰

<seal>

[Other signatories omitted]

Third-level Manager-equivalent [of the Office of the Retired Tennō] and Junior
Controller cum 1st Lieutenant of the Right Gate Guards Lord Taira <Chikamune>⁷¹

<seal>

Fifth-rank Fourth-level Manager-equivalent⁷² [of the Office of the Retired Tennō] Lord
Nakahara <seal>

⁷⁰ 藤原隆季 Fujiwara no Takasue (1126-?): At this time, Takasue held the senior second rank and the post of provisional grand counselor. (*Kugyō bunin* p. 499)

⁷¹ 平親宗 Taira no Chikamune (1143-?): At this time he held the rank of senior fifth rank lower. (*Kugyō bunin* Vol. 1 p. 502, *Kebiishi bunin* p. 191)

⁷² In referring to staff of an elite household, the “*dai*” character (代) can be used to indicate managerial positions equivalent to those in a government office. (Endō Motoo, KW 2008)